

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	16H06317	研究期間	平成28(2016)年度 ～令和2(2020)年度
研究課題名	社会的闘争を制御する神経回路機構	研究代表者 (所属・職) (平成31年3月現在)	岡本 仁 (理化学研究所・脳神経科学研究 センター・チームリーダー)

【令和元(2019)年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(意見等)		
<p>本研究は、ゼブラフィッシュとマウスを用いて、社会的闘争を制御する神経回路機構の詳細を明らかにしようとするものである。</p> <p>これまでに、1) ゼブラフィッシュで社会的闘争における敗者の経路の活性化が脚間核でのニコチン性アセチルコリン受容体を介したカルシウム透過型 AMPA グルタミン酸受容体の表在化によること、2) マウスで手綱核と脚間核の間の敗者の経路の活性化による正中縫線核のセロトニン神経の抑制が敗者の行動の主因であること、3) ゼブラフィッシュで飢餓が勝者の回路を活性化すること、を見だし、期待された研究成果を上げつつある。手綱核・脚間核経路の神経回路標識については当初の研究計画から変更したものの、代替案による研究の進捗が認められる。</p>		